ZOSHIGAYA MISSIONARY HOUSE MUSEUM

雑司が谷旧宣教師館だより

第 68 号　　2021 年 9 月 30 日

豊島区立雑司が谷旧宣教師館
〒171-0032　東京都豊島区雑司が谷 1-25-5　TEL/FAX　03-3985-4081
https://www.city.toshima.lg.jp/bunka/bunka/shiryokan/index.html

SDGs未来都市豊島区
TOSHIMA International City of Arts & Culture
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
豊島区は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。
11月1日は としま文化の日 Toshima City Culture Day

2020 年度大規模修繕特集

2020（令和 2）年 11 月から翌年 3 月まで行っていた大規模修繕が終わり、4 月 1 日より無事に開館しました。東京都指定有形文化財（建造物）である当館の修繕は、外壁の塗装がはがれやすいことからこれまでも定期的に行ってきました。しかし、豊島区がこの建物を保存のため取得し、復原工事が行われた 1984（昭和 59）年から 30 年以上が経過したため、外壁塗装だけでなく、建物の内部を補強する必要も出てきました。

引き続き適切に保存を行っていくため、豊島区教育委員会、豊島区立郷土資料館、当館、施工業者で補修箇所・補修内容を検討し、約 5 か月間の作業を終え、無事に修繕を完了することができました。

今回の館報では、修繕の様子をお届けします。

▲修繕後の当館

▲既存の開口部を開けて調査。修繕を加える前に状態の確認を行います。

▲足場解体前の検査。外壁の仕上がりを確認。

▲修繕の完了に伴い、足場を撤去。しっかりとした足場を組んでいただきました。

（小山　勝美）

ギャラリートークがはじまりました！

2021（令和 3）年 7 月 10 日（土）、旧宣教師館は初めてのギャラリートークを開催しました。これまでも主に団体・グループ見学を対象としたご案内をさせていただく機会はありましたが、旧宣教師館の魅力をもっと気軽に、より多くの方々に知っていただきたいとの思いから、このたびギャラリートークを開始しました。

当日は梅雨の合間のお天気に恵まれ、大変暑い日でしたが、多くの参加者をお迎えすることができました。ギャラリートークでは、庭園と館内をゆっくり巡りながら、当館の学芸員が解説を行いました。宣教師マッケーレブゆかりの庭園の樹々、建築の外観や内装の特徴など、中にはあまり知られていない見どころもあり、参加者の方々も大変興味を持ってくださったようです。

▲建築の特徴について解説を行いました

旧宣教師館では、今後も定期的にギャラリートークの開催を予定しています。半年がかりの大規模修繕によって輝きを取り戻したばかりの旧宣教師館は、皆様のお越しを心よりお待ちしております。雑司が谷界隈の散策を楽しみながら、歴史と文化にあふれた木造洋風建築の魅力に触れてみませんか。

▲旧宣教師館に関するご質問も頂きました

（鴫原　由美）

ギャラリートーク　今後の開催予定

2021 年 10 月 9 日（土）、11 月 13 日（土）、12 月 11 日（土）
いずれも 14:00 より 30 分程度

※予約は不要です。開始時刻までに旧宣教師館の正面玄関前にお集まりください。
※諸般の事情により開催日時が変更または中止となる場合があります。

文化財建造物の修繕
―雑司が谷旧宣教師館の場合―

皆さんは文化財建造物の修繕と聞いてどのようなものを想像するでしょうか。古くなった部材を取り換えたり、補強したりといったことを思い浮かべるかも知れません。昔の姿に近づけるための工事などもあります（復原工事と呼ばれます）。

今回の修繕では、これまでも定期的に行われていた外壁の塗装に加え、一部天井や床などの小破箇所を補強しました。建物内部の修繕については、過去に漆喰壁の修繕などをしたことがありますが、床下や天井裏を点検し手を加えることは、1989（平成元）年の開館以来、初めてのことです。

雑司が谷旧宣教師館の修繕の基本方針として、「なるべく手を加えない」ことにしています。1984（昭和 59）年の復原工事の記録がまとめられた『東京都豊島区　雑司が谷旧宣教師館保存修理工事報告書』には、「当初材は腐朽破損していないもの、および板材では割れ等のないものは再用することとした。」とあります。建物の基礎部分は傷みが激しく作り直したようですが、当初材がまだ使用できると判断された部分は残すことで、往時の雰囲気を残そうと判断したことが察せられます。今回の修繕でも、なるべく木材等を傷つけずに小破箇所を修繕することにしました。

大規模修繕の様子

ここからは、昨年度行った修繕の様子をお伝えします。併せて、館内に配架している A5 サイズのパンフレット『豊島区立雑司が谷旧宣教師館の保存と修繕』もご覧になると、より当館の保存についての知識を深めていただけると思います。

1.　2 階暖炉前床

当館には暖炉が全部で 6 基あります。そのうち、2 階の旧寝室にある暖炉の前の床は踏み込むと下がるため、床を支える木材が古くなってしまったのでは、と予想されました。施工業者の方に床板を外してもらい調査したところ、暖炉際の床を支えているはずの木材が本来あるべきところから脱落し、支えを失った床板が踏み込むと下がる状態になっていることが判明しました。

これを解決する案として、当初、既存の支えとなる木材（「根太」と呼ばれるものです）の他に新規の根太を入れることが提案されました。しかし、既存の開口部だけでは木材を入れられないため、床板を切り、新規に開口部を設けなくてはなりません。既存の開口部のみで対応できないか施工業者の方と相談し、開口部から入れられるサイズの木材フレームを既存の根太に固定することにしました。

2.　上げ下げ窓

上げ下げ窓は内部に重りがついている窓で、下から上に持ち上げることで開けることができます。内部の重りについた紐が劣化すると、ちぎれ、窓が落下し、破損の恐れがあるので定期的に交換しています。今回は、上げ下げ時にがたつきの大きかった箇所（旧食堂等）や、窓枠の木の部分が割れてしまったことで上げ下げが困難になってしまった箇所（階段踊り場の窓）も修繕しました。

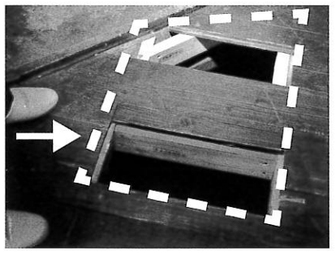
3.　外壁

外壁は、今回の修繕だけではなく、東京都指定有形文化財に指定された翌年（2000 年）から、5 年ごとに塗り替えて修繕を行っている箇所です。外観の美しさを保つためということもありますが、なにより木材を守るためというのが大きな理由です。塗りたてこそ綺麗ですが、時が経つと黒いススのような汚れが徐々に付き、4 年目になると塗装が剝がれてしまう箇所も出てきます。風雨から木材を守る役割を持つ塗装が剥げると、木材の腐朽に繋がります。

ペンキを塗り直す際には、まずケレン作業を行います。ケレン作業とは、年月が経ち、ペンキが剝がれて凸凹になってしまった壁面を、新しいペンキを塗るために平らにするための作業のことです。こうすることで塗料の密着度が上がります。塗装が行われていた期間は雨も降らず、順調に作業が進み、美しい白い壁がよみがえりました。

（小山　勝美）

2 階暖炉前床



◀◀2 階暖炉前床の修繕前の様子です。床板を外してみると、支えとなる板が脱落していました。

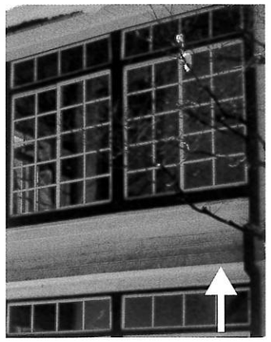
◀既存の開口部は 2 か所。台形の木材のフレーム（破線のような形）を作成し、写真手前側の開口部から入れ、根太に打ち付けて固定しました。

上げ下げ窓

▲上げ下げ窓の壁の中は空洞になっており、重りが下がっています。※写真は 2015 年の修繕の時のものです。

▲上げ下げ窓の横幅が短いと、壁との隙間が広くなり、がたつきが生じます。ゆっくり、まっすぐ上げ下げするなど、取り扱いに配慮が必要です。

外壁



▲修繕の前（2018 年 2 月）に撮影された、東側壁面です。1 階と 2 階の間の壁面に黒い部分（スス）があります。

◀生放送番組「としま情報スクエア」（2021 年 7 月 24 日放送分）にて取り上げられました。壁面のケレン作業などの様子も見ることができます。
豊島区公式 としま ななまるチャンネル (https://www.youtube.com/watch?v=VbXSiMndO5Q)